

⑩平成28年熊本地震における高速道路災害応急復旧事業

受賞機関 西日本高速道路株式会社 九州支社

全建賞審査委員会の評価ポイント

震度7を2回記録した「平成28年熊本地震」によって、跨道橋落橋、法面崩落、橋梁の損傷など九州各地で甚大な被害を受けた高速道路の応急復旧事業。早期の交通開放に向けた応急復旧作業に関係者が一丸となって取り組み、その結果、九州道は4月29日、大分道は5月9日に通行止め解除が出来たことを評価。

1. はじめに

平成28年熊本地震では、震度7の前震・本震の発生により、NEXCO西日本が管理する九州の高速道路の約半分に当たる9路線507kmが通行止めとなり、のり面崩落、路面の亀裂や段差、橋梁の桁ずれや桁の支承から脱落、支承損傷、料金所建物の損傷などの甚大な被害を受けた。NEXCO西日本は、地震発生後から関係者が一丸となって24時間体制で被災箇所での早期点検・応急復旧に注力し、一部区間で対面通行を実施しつつ、九州自動車道は4月29日、大分自動車道は5月9日に通行止めを解除した。

2. 事業の概要

NEXCO西日本では、4月14日21時26分の前震発生後、直ちに本社と九州支社、熊本・大分両県にある高速道路事務所に災害対策本部を立ち上げ、直ちに点検に着手した。把握された被害状況を基に各高速道路事務所は復旧作業計画を策定した。

対策本部では復旧工法の策定や復旧に必要な資機材・労務の調達を業界団体やNEXCO西日本グループに要請する等、後方からの支援体制について協議を重ねた。また、近隣の高速道路事務所から被災事務所に応援出動



橋梁 応急復旧状況

する等、関係者が一丸となって24時間体制で被災箇所での早期点検・応急復旧に注力した。

3. 事業の成果

応急復旧にあたっては、被災地への救急活動、支援物資の輸送のため緊急車両の通行帯を確保する取組みを第一優先として進め、4月16日の16時00分に九州自動車道の松橋IC～八代IC間、4月19日の8時45分には植木IC～益城熊本空港ICについて緊急車両の通行を確保した。引き続き、路面の段差や亀裂の応急復旧を行い、被害の大きかった九州自動車道の益城熊本空港IC～嘉島JCT間、大分自動車道の湯布院IC～日出JCT間の2区間を除き、4月26日15時00分までに一般交通への開放を実施した。残る区間においても被害の大きかった橋梁にベントやサンドルを設置し、桁の仮受けを行い、のり面崩落箇所についてはのり面保護工や、中央分離帯付近に土留め工を設置する等の対策を取った。また、一部区間においては、対面通行運用等の規制を実施しつつ、九州自動車道は4月29日の9時00分、大分自動車道は5月9日の12時00分に、前震発生から25日で最大507kmに及んだ通行止めを解除した。



切土のり面 応急復旧状況

4. おわりに

第一線でご尽力いただいた関係建設業団体をはじめ、関係機関の方々のご協力により高速道路が早期復旧を果たし、被災地域における基幹インフラとして復興支援の一翼を担えたことに感謝の意を表したい。

賛助会員 (株)大林組、オリエンタル白石(株)、(株)ガイアート、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)、(株)熊谷組、大成建設(株)、(株)NIPPO、日本鉄塔工業(株)、日本ファブテック(株)、三井住友建設(株)、(株)横河ブリッジ